

恵みと真理のニュース



2020年01月の一次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

聖なる職分と使命とビジョンを受けて、献身奉仕しながら、主と同行する幸せな人生を生きるようにしてくださった神様に感謝を捧げます

私は幼い時から30代になった今まで、恵と真理教会に通い、信仰生活をしている青年です。幼い時からよく知らなかったのですが、両親が新婚の頃から我が教会で相変わらず信仰生活をして、そのような親のもとでも教会学校と聖歌隊員として奉仕したことが、今日、感謝を捧げます。教会学校に通う頃、私は自分の意志と真実な信仰で教会に通って奉仕しなかったです。人格的に主に出会った状態ではなかったの、教会では、もちろん学校と家庭で神様の子供らしく生活をしなかったです。青年になり、当然の幼年部で教師として奉仕ははじめましたが、心と思いを尽くさなかつたです。私が主からいただいた愛と主に向かう私の愛によって、奉仕しなくて、世にある奉仕活動や部活をしている様子で奉仕しました。

”私は、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る。”（ヨハネの福音書 14:18）と約束を御言葉が叶えるため教会の多くの先輩と同期達を通して1年を超えるほど行かなかった青年礼拝で私を導いてくださいました。行くようになった青年礼拝を通して”それゆえ、信仰は聞くことから、聞くことはキリストの言葉によって起こるので”（ローマ書10章17節）御言葉の意味を確実に悟るようになりました。他の先輩後輩の青年達と共に集中して牧師の説教を聞き聖書御言葉を黙想しながら信仰が成長して神様との関係が成立され始めました。御言葉を通して神様の愛とイエスキリストの恵みを深く悟り、教会の奉仕に対する概念と態度が変わりました。単純に聖書に関する知識を伝えることではなくて、私の心霊に溢れる主の愛を教会学校の子供たちに与えるのが教師の真の愛であり、献身で、主が私に下さった尊い使命であるとを悟るようになりました。そして聖歌隊の子供達と共に練習をして賛美をすることが聖なる賛美になりました。神様と神様の御言葉にもっと体

系的で深く知りたくなりました。それで、青年集まりの聖書勉強の時間に御言葉を受する心で慎重に参加するようになって、聖書を知れば知るほど神様がどのくらい私を愛しているか、神様がどれくらい完全な方なのか、神様の性品と属性に対して神霊な知識を備えて行くようになりました。神様の交わる時間が何よりも大事で、期待になる時間になりました。教会で過ごす多くの時間が、もったいなくとても有益になりました。青年奉仕宣教会でも区域長として人々を使いました。しかし、私の意志が弱くて信仰と人生が完全に調和しなかったので神様の前で恥ずかかったです。そうするうちに大学の課題のため、漢江に行きましたが、漢江市民公園の工事現場で工事資材に下敷きになって大腿部とつま先が骨折する事故にあいました。以後、6か月間、病院に入院して治療を受けましたが、結果的にこの時間に大事な恵みの体験する時間になりました。病院に入院しているあいだ、いつも私を見守ってくださる神様の愛を考え、体験するようにしてくださいました。歩いたり、走ったり、すること全てが神様に感謝することでした。教会に行くと礼拝を捧げ、奉仕する幸福と感謝することを知ることになりました。これからはどんなことでも、どこでも神様を意識して生活をしようと思を決断しました。そして、私のため祈ってください、多くの青年と聖徒達がいることを聞くようにしてくださいました。就職して、退っていた会社生活に懐疑心を持つようになって、退職を悩んでいる中で旅行もして、働きながら見聞を開くため、オーストラリアでワーキングホリデーに行くことになりました。私が行く地域に我が教会の宣教師もおられ、そこでも信仰生活をよくできると思い、心配はしなくてオーストラリアに行きました。決定して計画する中で祈りもおろそかにしたことが私の大きい過ちでした。市内から離れた島のリゾートで働いたら、主日礼拝も捧げない時が多かったです。一人で、信仰生活することがどれほど難しいことが改めて知りました。

その後、農場で働くようになり、近くにある韓国教会に出席しました。新しい信者の心で礼拝を捧げて聖徒達と交際しながら、御言葉と聖霊の恵みが充滿な我が教会が懐かしかったです。そして、修練会で懐かしかったです。そして、修練会で久しぶりに神様の御心を求めて熱く、祈りをしました。神様が確信を下され、すぐ、オーストラリアの生活を辞めて韓国の恵みと真理教会に戻ってきました。主が摂理してくださって、この練達の家を通して私にとがっているところをき

れいに整えて悔い改める心霊で神様に進みます。聖霊充滿を経験して異言の賜物を受けました。聖霊で充滿になり、誰がさせなくても、私は平日礼拝の講解説教を際するようにしました。どんな選択しても礼拝中心、教会中心、神様の中心で判断して決定するようになりました。すると、神様は恵みを与えてくださり、もっと主を仕える良い職場を与えてくださり、主の事に力をつくすような環境を与えてくださいました。教会の奉仕に対する熱情と喜びと感謝が倍になって、青年奉仕宣教会で、尊い職分を任されて奉仕するようになりました。”新しい家族部で青年初信者を仕えながら、以前になかった幸せで福音を伝えることに力を尽くしました。善い目標を立てず、神様の御心を求めて恵と真理で充滿な生活のため祈りました。神様は”若き日に、あなたの造り主を心に刻め。／災いの日々がやって来て／「私には喜びがない」と言うよわいに／近づかないうちに。太陽と光、月と星が闇にならないうちに。／雨の後にまた雲が戻って来ないうちに。”（コエレットの言葉12:1, 2）は御言葉を私の心に刻んで青年奉仕宣教会に対するもっと大きいビジョンをくださいました。悩んで、祈った後、教師の職分を休職して、主日には青年奉仕宣教会で新信者部を仕える一方、大聖殿で礼拝を案内して、主日礼拝奉仕部として奉仕し始めました。男性奉仕宣教会、女性奉仕宣教会、世界宣教会と国内宣教連合会などで業力して奉仕しながら、我が教会の3代目標と聖徒の生活の3代目標だけでなく、10年の後、我が教会の姿と北朝鮮宣教などを考えながらもっと熱心に祈って献身するようになりました。

このように私の若い時に御言葉の恵みと聖霊に権能が充滿な我が教会で神様に礼拝して、聖なる職分と使命を受けて主の事に献身し、日々主と共に同行する賛美ある人生になるようにしてくださいました。神様に感謝と賛美を捧げます。長年になっても、老年になってもいつも神様の御言葉に深く根を下ろして、揺れない信仰で神様を畏れ、愛し委ねながら、神様の御心に従順して生きることを願います。“子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いと真実をもって愛そうではありませんか。これによって、私たちは真理から出た者であることを知り、神の前に心を安らかにされるのです。”（ヨハネの手紙一3:18, 19）アメン 神様の愛、隣人を愛を言葉だけでなく、行いと真実ですと再び、決断します。私の全てが神様の恵みです。ハレルヤ！



【信仰コラム】

悔い改めと許しに対する聖書的な理解と適用

”あなたがたは、自分で注意していなさい。もしあなたの兄弟が罪を犯すなら、彼をいさめなさい。そして悔い改めたら、ゆるしてやりなさい...”（ルカによる福音書 17:3, 4）

人は彼が持った知識をいかなる目的でどのように使用するかに従って、その知識が有益でもなり、有害にもなります。知識が弊害の原因であるかも知れないが、無知はより大きい弊害をもたらします。無知に劣らなく有害なのが誤解です。最も悪く害になる無知と誤解は聖書の御言葉に対する無知と誤解です。救いに関連したのはよりそうです。悔い改めと許しは救いに関連されています。悔い改めと許しに対する無知と誤解は信仰生活前半に渡って弊害をもたらします。

第一、自分と神様との関係で必ずあるべきで体験すべき悔い改めと許しについて調べてみましょう。悔い改めは救いを得るに必須的な要素であります。イエスは御自分がこの世に来られた目的に対して”わたしが来たのは、義人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである”としました。凶悪な強盗が悔い改めて直ちに救いを得る感動的で恵み深い場面を通じて主イエスキリストによる救いがいかに豊かであつたか、単純明瞭であるかを悟ることができます。二人の強盗が話した言葉は少ないがイエスキリストに

対して各自の心の中に持った考えが確実に表明されました。そして数時間後、二人の魂は各々異なる世界に行きました。一人は陰部に行き、死ぬ直前に救いに至る悔い改めをしたもう一人の強盗は楽園に行きました。救いの恵みと真理は悔い改めと許しが核心です。イエスが罪人のために十字架で釘つけられて死なれたから罪人が悔い改める道が開かれました。自分が絶望的な罪人であることを認めてイエスキリストだけが救い主であることを信じて迎えることが救いを得させる悔い改めです。

第二、自分と他人との関係での悔い改めと許しについて調べてみましょう。ペテロの”主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯した場合、幾たびゆるさねばなりませんか。七たびまでですか。”という質問にイエスが”わたしは七たびまでとは言わない。七たびを七十倍するまでにしなさい。”と答えられました。数字で限らずに許しなさいという意味です。自服して悔い改めると無制限で許してあげなければなりません。イエスは続いて王に一万タラントの負債を免じられた僕が自分に百デナリを貸している同僚を苛酷に扱った話で教訓してくださいました。天国で生きる人は許すことができる人になるべきです。自分がキリストの中で神様に許されたことを考えると許せないことがありません。この御言葉を適用するにおいて誤解してはなりません。悪者の悪行を袖手傍観することが許しではありません。

そのような悪行をしないように適切な対処をすべきです。教人が教会に害を与える事をする場合に適用しなければならぬ指針がマタイによる福音書 18 章に記録されています。（18:15~17）。他人から不当に抑鬱な事を受けた場合に適用する指針がルカによる福音書 17 章に記録されています。（17:3, 4）人間関係での許しは加害者が被害者に自分の誤りを認めて許し求めるべきであり、被害者は許しを求める者を寛大に許してあげるべきです。加害者が自分の誤りを認めて許すことだけで被害者が受け入れたらそれで終結するが、そうではないと加害者は被害者に及ぼした苦痛と損失に対して励んで補償しなければなりません。悔い改めない許しは神様の国の法ではありません。イエスの愛と贖いの恵みは悔い改める人だけに該当されます。最後まで悔い改めない者は地獄刑罰を受けます。人間関係でも悔い改める機会や許す機会を逃すと後悔しても無駄な時が来ます。神様の許しを受けて救いを得る悔い改めをした人は許された喜びと天国の望みを持って生きていきます。人間関係で聖書通りに悔い改めて許すのを実践する人は心が楽になります。これは悔い改める人と許す人にくださる神様の賜物であります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム「緑の牧場、清い川」本の語り中」

神を畏れなさい



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

“人の本分は何でしょうか。”という問いに対してためらわず答える人は、そんなに多くないでしょう。答えをする人は自分の思想や信仰に基づいて様々な答を得ることになりますが、必ずしも知べきことは人の本分は人が決めることではないということです。なぜなら、人が被造物だからです。人を造られた創造主の神様が人をお創りになる時、人の本分を決めました。従ってその答えは神様の啓示した御言葉が聖書から得ることができます。

ソロモンが聖霊の感動を受けて言いました。“聞き取ったすべての言葉の結論。／神を畏れ、その戒めを守れ。／これこそ人間のすべてである。”と言われました。この以外にも聖書には神様を畏れることが人の本分という御言葉と神様を畏れるという御言葉が数多く、書いてあります。聖書は神様を畏れることに関してその骨に解党する部分を調べてみます。

第一は、神様を畏れるならば神様を知らなければなりません。

神様がどなたなのか知らなければ、神様を畏れることはできません。神様は、人生が神様を畏れるように自分を様々な部分にかけて、様々な方法で啓示されました。神様は万物を通して自分を啓示しました。“いと高き方を隠れ場とする者は／全能者の陰に宿る。私は主に申し上げる／「わが逃れ場、わが城／わが神、わが頼みとする方」と。まことに主はあなたを救い出してください。／鳥を捕る者の網から／死に至る疫病から。主は羽であなたを覆う。／あなたはその翼のもとに逃れる。／主のまことは大盾、小盾。”（詩編：19：1～4）神様は人類の歴史をと襲て自分を啓示なさいました。考古学的発見、化石と地層の科学奇術による分析、遺伝工学の発展などは、人類は一血統であり、歴史は主権者であり、摂理した神様によって治められていることを知らせてくれます。

神様は予言者達を通して自分を啓示なさいました。ヘブライ信徒への手紙一章に記録されましたが、“神は、かつて預言者たちを通して、折に触れ、さまざまなかたで先祖たちに語られたが、”と言われました。神様はイエスキリストを通して自分を啓示されました。使徒ヨハネが記録しました、“言は肉となって、私たちの間に宿った。私たちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。いまだかつて、神を見た者はいない。父の懐にいる独り子である神、この方が神を示されたのである。”（ヨハネの福音書：14、18、19）としました。神様は記録された聖書を通して神様に対して啓示されます。神様が啓示された神様の品性はこうです。

1、神様は霊で永遠でお一人でおられます。2、神様は全知全能で無所不在です。3、神様は絶対主権者です。4、神様は正義で聖なります。5、神様は真実です。6、神様は慈しみ深くて善を行われます。

第二は、神様を畏れるならば、畏れるという意味を知るべきです。

聖書には“畏れる”という御言葉が使われた区節が数多く書いてあります。“畏れる”という単語は一般艇に危ない危機に直面したり、怖れたりする時、経験する不安と恐怖を意味します。聖書は恐れを神様に対する反応で一番よく言及されています。箴言には“主を畏れることは知識の初め。／無知な者は知恵も論しも侮る。”（箴言1：7 9：10）と言われました。神様に向かう信仰の重要な要素が主を畏れることです。敬って畏れることです。このような畏れは、尊敬と礼拝で表現します。神様を畏れと関連した基本、十戒名の第1、2、3、戒名です。第1 戒名は“あなたには、私をおいてほかに神々があってはならない。”（出エジプト記20：3）です。礼拝の対象に関することです。神様を畏れる人は創造主であり、イエスキリストによって私たちを救ってくださる神様だけを仕えなければなりません。

第2 戒名は“あなたは自分のために彫像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、また地の下の水にあるものの、いかなる形も造ってはならない。それにひれ伏し、それに仕えてはならない。私は主、あなたの神、妬む神である。私を憎む者には、父の罪を子に、さらに、三代、四代までも問うが、（出エジプト記20：4、5）です。礼拝する方法です。神様を仕えても偶像や形を作って礼拝してはいけません。神様に礼拝ささげる礼拝でも、どのように 形状を媒介にして差し上げるのであれば、神の戒めを逆らう行為であり、神を憎む行為とみなされます。カトリックで使われる教理問答書や信仰書籍で“あなたは自分のために彫像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、また地の下の水にあるものの、いかなる形も造ってはならない。”という戒名を除外させました。そうして、第3 戒名は2 戒名で第4 戒名は3 戒名で順番を替えて、十戒を作るため二つに分けました。

第3 戒は、あなたは、あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。主はその名をみだりに唱える者を罰せずにはおかない。（出エジプト 20：7）です。神様に対して聖書に啓示された通り、神様、すなわち、創造主であり、イエスキリストによって罪人を救う神様、公儀で裁かれる神様という概念を持って、その名を呼ばなければなりません。そして、神様の名を軽率に不注意して呼んではいけません。冗談でまた、娯楽で使わないように注意しなければなりません。

第三は、神様を畏れうならば、神様の御言葉を信じて従順しなければなりません。

私達が神様を畏れる者として、神様を認定と称賛を受けるなら、アブラハムの模範に従うべきです。神様はアブラハムを試しようと呼びました。“あなたの息子、あなたの愛する独り子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そして私が示す一つの山で、彼を焼き尽くすいけにえとして献げなさい。”アブラハムは朝早く起きて、ろばに鞍を置き、二人の従者と息子イサクを連れ、焼き尽くすいけにえに用いる薪を割り、神が示した場所へと出かけて行きました。

三日目になって、アブラハムが目を見ると、遠くにその場所が見えました。アブラハムは従者に言った。「ろばと一緒にここにいなさい。私と子どもはあそこまで行き、礼拝をしてまた戻って来る。」アブラハムは焼き尽くすいけにえに用いる薪を取って、息子イサクに背負わせ、自分は火と刃物を手に持った。こうして二人は一緒に歩いて行きました。

神が示された場所に着くと、アブラハムはそこに祭壇を築き、薪を並べ、息子イサクを縛って祭壇の薪の上に載せました。アブラハムは手を伸ばして刃物を取り、息子を屠ろうとした。アブラハムは手を伸ばして刃物を取り、息子を屠ろうとするとき、天から主の使いが呼びかけ、「アブラハム、アブラハム」と言った。彼が、「はい、ここにおります」と答え、主の使いは言った。「その子に手を下してはならない。何もしてはならない。あなたが神を畏れる者であることが今、分かった。あなたは自分の息子、自分の独り子を私のために惜しまなかった。」としました。

“アブラハムが目を見て見ると、ちょうど一匹の雄羊がやぶに角を取られていました。アブラハムは行ってその雄羊を捕らえ、それを息子の代わりに焼き尽くすいけにえとして献げました。主の使いは、再び天からアブラハムに呼びかけて、“言った。「自らにかけて誓われる主のお告げである。あなたがこうして、自分の息子、自分の独り子を惜しまなかったの、私はあなたを大いに祝福し、あなたの子孫を空の星のように、海辺の砂のように大いに増やす。あなたの子孫は敵の門を勝ち取るであろう。地上のすべての国民はあなたの子孫によって祝福を受けるようになる。あなたが私の声に聞き従ったからである。」”と言われました。

アブラハムが独り子 イサクを祭祀のいけにえで捧げる過程は、神様を畏れる人は神様の御言葉に徹底的に信じて従順する教訓を表しています。ヘブライ信徒への手紙11章をみるとアブラハムがイサクをいけにえで捧げる行いのもとにある信仰を表して、説明しています。“信仰によって、アブラハムは、試練を受けたとき、イサクを献げました。つまり、約束を受けていた者が、独り子を献げようとしたのです。神はアブラハムに、「イサクから出る者が、あなたの子孫と呼ばれる」と言われました。アブラハムは、神が人を死者の中から復活させることもおできになると信じたのです。それで彼は、イサクを返してもらいました。これは復活を象徴しています。（ヘブライ人への手紙11：17～19）と言いました。

アブラハムが取った行動はイサクを殺したと同じでした。従って、神様はアブラハムがこのイサクをいけにえとして捧げたと思われました。神様の御言葉に従順は理由を問わず、従順です。より具体的には、自分が願わない事でも従順することです。自分の理解が出来なくても従順することです。自分に犠牲があっても従順することです。神様を畏れるなら、神様の御言葉に対する信仰と従順に従うようになります。今日の本分には“聞き取ったすべての言葉の結論。／神を畏れ、その戒めを守れ。／これこそ人間のすべてである。”と言われました。聖徒、皆さんは神様が決められた人の本分にふさわしくいきることによって神様から認められて、神様の助ける恵みをいつも体験するように願います。